

■問3. 自身の発明を先行技術と差別化しましょう。

- ① 自身の発明、および先行技術について、それぞれ構成要素に分解した上で両者を対比し、要素の違いを見つけます。「ダントツワークシート」付属の表(別紙2)を用い、構成要素対比表を作成し考えましょう。
* 3-2参照:「複数の貫通した孔を有する切り餅」の事例において、先行技術に対する要素の違いをどのように見つけましたか？

- ② 要素の違いが生む「効果」を見出します。「効果の判断フローチャート」を用い、できるだけ「異質な効果」が見出せないか検討しましょう。
* 3-3参照:「一口量を噛み切りやすい」は、先行技術では得られない種類の効果でした。同様に、先行技術では得られない種類の効果が自身の発明に存在しないか、考えてみましょう。

- ③ 見出した「効果」から、自身の発明が解決している「課題」を提示します。
* 3-4参照:「この効果がなかったことにより、現在、世の中でどのような問題が生じているか？」と問いかけましょう。

- ④ 自身の発明の「解決手段」に必須となる要素を特定しておきましょう。見出した効果は、どの要素から生じているでしょうか？
* 3-3参照:「一口量を噛み切りやすい」という効果は、「複数の貫通した孔を有する切り餅」のどの要素から生じていましたか？

- ⑤ 解決手段の上位概念を考えてみましょう。その上位概念に属する他の解決手段でも、同様の「効果」が得られるかどうかに注意しましょう。
* 3-3参照:例えば、「複数の貫通した孔を有する切り餅」は、どのように上位概念化できたでしょうか？
できるだけ広い権利が取得できる発明として捉え直せないか、余力のある人は是非取り組んで下さい。

■問4. 発明を捉え直した結果、自身の発明の効果、および課題が当初から変化した場合、問2に戻りましょう。

■問5. 問1～問4の回答結果をもとに、別紙3 発明提案書フォーム に必要事項を記入し、発明提案書を作成しましょう。

構成要素		効果